

## 防災通信 No.35

この通信はみなさんの防災意識を高めていただき、少しでも被害を小さく出来ることを目的に作成しています。ご意見等ありましたらお寄せください。

(グリーンテラス本郷台自治会)

# 火災への備え (1)

今回と次回は、グリーンテラス本郷台の火災発生時の消火対応について考えてみましょう。

## 【消防水利】

消防・消火活動を行う際に利用する水利施設を消防水利と言います。

消防庁発表の「消防水利の基準第2条第2項」で ①消火栓 ②防火水槽 ③河川・溝等 ④豪・池等 ⑤海・湖 ⑥井戸 ⑦下水道 ⑧私設消火栓 ⑨プールが消防水利に該当するとされています。

グリーンテラス本郷台近辺には、①消火栓、②防火水槽があります。



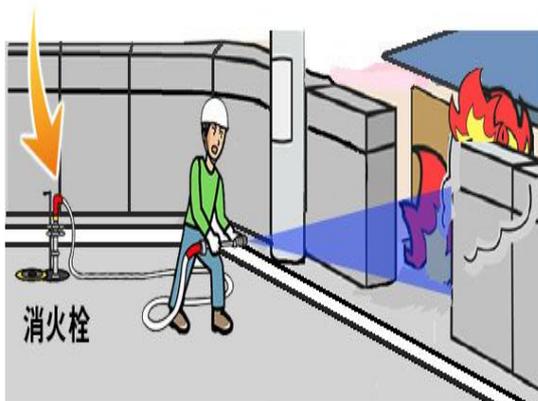
## 【消火栓】

消火栓は具体的には水道管中に設けられた給水栓のことを言い、そこから給水される水は普段私たちが利用している水道水です。近辺では桂台第5公園と桂台団地の間の道路にあります。

湘南ハイツ・朝日平和台・桂台等では、スタンドパイプを使用して消火訓練を行っています。(各地区数セットずつ保有しています)

スタンドパイプとは、消火栓に差込みホースと管そう(筒先)を結合することで、**毎分100ℓ以上の放水ができる消火用資機材**です。消火用資機材としては軽量であり操作も簡単で、**火元直近の消火栓・排水栓**を活用した有効な消火活動ができます。スタンドパイプ本体・消火栓鍵・スピンドルドライバー・媒介金具・ホース(40mm径)・管そう(筒先)で構成されています。

## スタンドパイプ



グリーンテラス本郷台の場合、消火栓が上記の場所しかありません。スタンドパイプは消火栓から約60mの範囲(標準装備のホース20m×2・放水20mと考え)での使用になります。ホースを延長すればと考えますが、延長が長いと圧力が下がり放水力が落ちてしまいます。消防隊・消防団は途中にポンプを配置し延長して消火活動ができますが、グリーンテラス本郷台では全域には使えず、スタンドパイプは不向きかと思います。また、消火栓の水圧は標高にも影響を受け、高所では下がります。

## 【防火水槽】

コンクリート製のタンクを地中に設け、そこに水を貯めておく設備を防火水槽と言います。消火栓と同じく消防水利の1つですが、予めタンクに溜めてある水をポンプで吸い上げて消火に利用するものであり、直接水道管から水を確保する消火栓との最大の違いがこの点にあります。また、溜めてある水をくみ上げる単純な仕組みのため、災害時に水道管が影響を受けた場合でも問題なく使用できるというメリットがあります。

グリーンテラス本郷台16号棟・17号棟前の公園入口にあります。



以上2点が公共の設備になります。消火栓・防火水槽ともに消防隊、消防団が主に使用する消防水利です。

## 【消火器】

グリーンテラス本郷台では、現在、各棟階段通路に〈HATSUTA PP-10C〉設置されています。  
薬剤量 ABC粉末3.0kg・消火能力単位A-3、B-7、C・使用温度範囲  $-30^{\circ}\text{C}\sim+40^{\circ}\text{C}$  **総数30本**

**放射時間 (20°C) 約15秒 ・ 放射距離 (20°C) 3~6m**

ABC粉末消火器（蓄圧式）とは、AがA火災＝普通火災・BがB火災＝油火災・CがC火災＝電気火災に対応し、粉末とは粉末消火薬剤を使用していることです。蓄圧式は、窒素ガスを常時均一にして圧力を保持しています。ゲージが付いているのが特徴で少量だけの使用も可能です。

初期消火を考えると、外にわざわざ取りに行くということは、大変なことで時間もかかります。各家庭でも初期消火に対応するために消火器・消火具を所持することが望ましいと考えます。

次回は、家庭での初期消火のための消火器・消火具について詳しくご説明します。